

第2回県立野市総合公園再整備方針検討委員会 議事要旨

○委員の主な意見

1. 展示・飼育に関する意見

- ・ 動物が心身ともに快適に暮らせるとともに、来園者に動物福祉の必要性を理解してもらえる展示
- ・ 動物との触れあいについては、動物の負担が大きい場合があるので、科学的な検証や飼育員に意見を聞きながら十分検討し、考えを整理する必要がある。
- ・ 展示については、自然に引き込まれていくように、入口は広く、奥は深くが大事。
- ・ 動物福祉の維持、向上に取り組むことができない動物は飼育しない。
- ・ 「生物多様性（保護・繁殖）」への取り組みを検討してもよいのではないか。

2. 施設整備に関する意見

- ・ 来園者にとって魅力があり、動物にとってエンリッチメントに資する展示（獣舎の整備）が必要。
- ・ 世界で進んでいる「気候変動」、「温暖化対策」にも配慮した施設整備を進めていくのがよいのではないか。
- ・ 動物園スタッフのだれにでも起こりうるミスが発生しても来園者と動物園スタッフ、動物の安全が保たれる設備であることが大事
- ・ 今後、動物福祉の考え方が変わっていくことも念頭に置き、科学的な評価（ストレスチェック等）を踏まえるなど、柔軟に施設や展示方法を改善していく。
- ・ 検疫施設やバックヤード（余剰個体を飼育する施設）については、海外との動物のやりとりには必要な施設である。

3. 運営に関する意見

- ・ 地元や地域（企業含む）に動物園を支えてもらえるよう連携をしていくとよい。
- ・ アメリカの動物園では、運営者の非営利組織が開拓的な方法に挑戦できる環境である。
- ・ 生物多様性の危機を訴え、魅力的な（整備や展示）プロジェクトを提示し寄付を募っている。
- ・ 寄付を得るためには、顔が見える信頼関係を構築、組織力により手間暇をかけ、支援者との関係強化に取り組む（しっかりとした体制を整える）必要がある。
- ・ （飼育の）ベースは税金、魅力的な施設は寄付金で上乗せできる仕組みを用意していくことが必要ではないか。
- ・ バックヤードなどの普段見えない場所を見せることでファンを増やすことができるのではないか。

4. 基本理念に関する意見

- ・ 理念の中に「動物公園スタッフ」が含まれているのが良い。理念に応じてスタッフが方向性を決定し、実現していくことは重要である。
- ・ 「ふれあう」は、触れて感触を知ることでも大事ではあるが、動物にとって負担となる場合がある。
- ・ 「動物が生きていることを実感できる」＝「生きている証にふれる」ということであり、「ふれあう」は動物に直接接触することだけではないと理解。
- ・ 基本理念の達成に向け、誰が何をするのか。園内外の多くの人と共有することが大事。

5. コレクションプラン（案）に関する意見

- ・ コレクションプランの考え方は了承。

6. 野市総合公園再整備方針骨子（案）に関する意見

- ・ 骨子案は分かりやすくまとめられている。ゾーンごとに何を整備していくのかが最終的に整理できれば良い。
- ・ 学びの中で自然の実態を学べる環境を創出することは可能か。山間部で問題になっている獣害の実態についてなど、山の環境を考えていただける方法はないか。